

市長記者会見記録

日時：2024年6月4日（火）14時00分～14時18分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入りますが、進行につきましては、幹事社様、よろしくお願ひします。

《社会福祉法人母子育成会について》

【時事（幹事社）】 6月幹事社の時事通信社です。よろしくお願ひします。

【市長】 お願ひします。

【時事（幹事社）】 幹事社から、まず1問お願ひいたします。先日、社会福祉法人「母子育成会」が記者会見を開きまして、前理事長の深瀬氏による巨額の私的流用疑惑について発表しました。川崎市は、令和4年度を対象とした監査で、初めてこの件について気がついたということでしたが、この件に関する市長の御所感をまず伺えますでしょうか。

【市長】 長年、本市の福祉に携わってきた社会福祉法人の前理事長が、このような事態に、起こったということに大変残念に思いますし、私たちも定期的な監査をしていたということでもありますけれども、経営の悪化ですとか、あるいは会計処理が不備だったということは指摘してきたということなんですけれども、今回の不正ということに、発見に至らなかったということについては、非常に遺憾に思っていますし、また、結果的に発見に至らなかったということでもありますので、そこの点は反省すべき点があるのではないかと思っています。

【時事（幹事社）】 もう1問なんですけど、今回、深瀬氏と市長とは御面識はありますでしょうか。

【市長】 あります。前理事長の前の理事長から含めて親交がありますし、老人福祉施設協会の役員もやっていましたし、それから毎年の敬老訪問ですとか、あるいはこどもの日の訪問なんかでも、毎年のようにお会いするということではありましたので、よく知っているという状況です。

【時事（幹事社）】 よく知っているという深瀬氏が、社会福祉法人によると、過去20年ぐらいで8億円もの巨額の私的流用をしていたということで、深瀬氏に対して述べたい言葉と申しますか、何かありましたらお伺ひしたいんですけれども。

【市長】 この話が何となくいろんなところでうわさに、新聞でも報道されたことによって、関係者とか周りの人、知っている人たち一様にして皆さん驚いているというか、正直、驚きを通り越したという感じが正直な私の感想ですし、周りの人もそう思っているんじゃない

かなと思っています。

【時事（幹事社）】 ありがとうございます。

【朝日（幹事社）】 朝日新聞でございます。

うちも関連で、深瀬前理事長の父親の元助役さんとは、御面識はあったのでしょうか。

【市長】 はい、あります。

【朝日（幹事社）】 どういったところで接点があったのでしょうか。

【市長】 というか、私の応援もしてくださっていただきましたので、そういう意味ではよく知っています。

【朝日（幹事社）】 応援というと、後援会組織に入っていたらっしゃったんですか。

【市長】 後援会にも入っていただい……、ちょっとお父様はどうだったかあれですけども、詳しく調べないと分かりませんが、いずれにしても応援していただいたことというのはありますので、それは事実です。

【朝日（幹事社）】 じゃあ、前理事長も後援会のメンバーだったのでしょうか。

【市長】 会員であったかどうかは、ちょっと確認しますが。

【朝日（幹事社）】 選挙では応援を受けていたという御認識だったんですか。

【市長】 そうですね。

《定額減税への対応について》

【朝日（幹事社）】 そうですね。

すみません、話題変えます。所得税の定額減税が導入されるということで、民間企業は事務作業が増えて大変な状況なんですけれども、川崎市役所も多分同様の状況だと思うんですが、市としての対応は何かされていますでしょうか。

【市長】 いろんな準備をして、確かに負荷はかかっていることは間違いないんですけども、大きな混乱はないという状況です。

【朝日（幹事社）】 経済的効果については、市長としては何かお考えございますか。特に……。

【市長】 いろんな意見ありますけれども、それは、こういうのは結果を見ての判断になるのではないかなと思います。

【朝日（幹事社）】 分かりました。

各社どうぞ。

《社会福祉法人母子育成会について》

【NHK】 NHKです。

幹事社さんが聞いていた母子育成会の関連の質問なんですけれども、市のほうも平成28年から監査に入っているながらも、8億円以上——2桁に上るという話もありますけれども——に上る私的流用を見つけられなかったという、その市の監査体制についてだったり、監査というものの自体の在り方についてどのように思われるか、お伺いしたいです。

【市長】 監査は、国の定めたガイドラインに従って監査をするということでありまして。こ

の監査に際しても、前の理事長が財務書類の改ざんですとか、あるいは領収書等の挙証資料を不正に準備していたという報告も受けています。そういうことで見つけられなかったということでもありますけれども、こういった監査というのはなかなか限界があるので、そういった意味では、正しくというのは、今回もそうですけれども、関係機関というか、警察にそれを委ねるしかない部分というのがあったと思います。

よろしいでしょうか。

【NHK】 はい。

【市長】 捜査権限がない以上、なかなか限界があるというのは事実だと思います。

【東京】 東京新聞です。

母子育成会の関係の続きなんですけれども、先ほど選挙のときなどに応援を受けたというお話がありましたけれども、法人側の会見で、8億円の中には含まれないけれども、横領が疑われる部分の中で、政治家への献金があったというお話があったんですけれども、市長御自身は、前理事長から献金を受けたですとか、そういうことはあったのでしょうか。

【市長】 個人としてはあります。法人、もちろん私、法人献金とかは一切受けられませんので、個人の献金としては頂いたことは1回あります。

【東京】 それはいつ頃なのでしょうか。

【市長】 ちょっと、日時については確認をさせていただきます。

【東京】 年頃、何年頃とかも分からないですか。

【市長】 かなり前だと記憶しています。

《市バスの減便について》

【東京】 分かりました。

すみません、別件なんですけれども、先週、市バスの大幅な減便が発表されました。前回の会見でも若干触れられていらっしやいましたけれども、改めまして、市民の方へ、今回の減便に対する市長の思いを伺えますでしょうか。

【市長】 先日、会見のときも申し上げましたけど、なかなか、今回の法改正などを受けての影響は避けられないという懸念を示しておりましたけれども、これが現実のものとなってしまって、市民の皆さんに御不便をおかけするということが大変申し訳なく思っております。

なかなか人手、運転手さんを募集していくということにはしっかり対応していきますけれども、現状、非常に厳しい状況ですので、引き続き、できることを全力でやっていくと、あらゆる手を尽くしてやっていくということでもあります。

【東京】 ありがとうございます。

《社会福祉法人母子育成会について》

【t v k】 t v kです。お願いします。

私も母子育成会について伺いたいんですけれども、公費20億円ぐらい法人のほうに払っていた分があるということで、前回、法人の会見では、8億はまだ、恐らく20億を公金

に使っていることはないんじゃないかという発言も法人側はあったんですけども、ある意味、市もそこに、20億がどのように使われていたのかというのを調べる必要があるのかなと感じたんですが、今後の対応……。

【市長】 うん？ それは不正に使われたということですか。

【t v k】 法人側に公金を払っている市として、どのような使われ方を公金がしていたのか。捉え方にしては市も被害者かと思うんですけども。

【市長】 母子育成会、介護事業と保育事業を両方やっていて、それについての補助金だとか委託料というのは、これはサービスの対価に関する経費という形でお支払いしていますので、それについては適切にサービスが履行されているということでありますので、それについては問題ないと考えております。

【t v k】 特にこれから市側として、どういうふうに使われたのかというのを市側から捜査する、捜査というか、調査したりとかはしないということですか。

【市長】 それは、どこの部分をおっしゃっておられますでしょうか。今申し上げた介護事業と保育事業についての給付費ですよね。これについては、サービスが確実に、基準に基づいて提供されていたということが確認できているので、そこには何か求めるものはないと考えています。

ただ、監査の中で一部指摘をさせていただいたところがありまして、一部の補助金で、補助目的と合わない使われ方をしているものが確認できたので、その部分については、所管局で確認して必要な対応を行っていくということであります。その他の補助金、委託費については適切に使われていると、目的に合わせて使われているということでありますので、はい。

【t v k】 ありがとうございます。

《教員不足等について》

【読売】 読売新聞です。

昨日、民間会見もありまして、市の教員がかなり不足している、市立学校での教員が不足しているということがありました。そういった、教員が不足という事実もあると思うんですけども、一人一人の生徒へのサポートが低下する中で、いじめ問題とか不登校にもつながっていく、波及していくということが考えられると思うんですけども、改めまして、市立学校の教員不足という問題、どういうふうにこれから改革をして、いろんな問題が絡んでくると思うんですけども、どういうふうに市長として対応に当たっていきたいとお考えでしょうか。

【市長】 現状の認識としては、教員が足りていないということについては、欠員が生じているということ自体は深刻に受け止めていますし、子供たちへの影響ですとか、あるいは一人一人の教員への負荷ということを考えてときには、学校全体として非常に厳しい状況にあると認識しています。

その中で、首都圏を見ても非常に教員不足というのは起きておりますので、より教育そのものが魅力的であるし、意味のある仕事だということもちゃんと伝えていかなくちゃいけ

ないし、当然、働き方改革というのをしっかりやっていくことが、より魅力的な職場になっていくことでしょから、そういったことをしっかり整えることによって、何というか、アピールするというよりも、ちゃんと整えていくということが、結果的にアピールになっていくということになるのではないかなと思っていますので、教育委員会ともその問題認識を共有していますので、しっかり当たっていきたいと思っています。

【神奈川】 神奈川新聞です。

今の話に関連する、ちゃんと整えるという部分で、この時点で去年よりも人数が大幅に足りないというのは、やはりちょっと見込みが甘いというか、厳しい状況だとは思うんですけども、その辺というのは、市長としては、どの段階で把握されていたんでしょうか、実際のところ。

【市長】 どの段階で把握したというのは。

【神奈川】 今日の各社さんの報道とかもそうですけれども、昨年の2倍だという数字というのは、すごく深刻だと思うんですけども、その辺。

【市長】 確定の数字を聞いたのは、本当に数日前です。ただ、実態として非常に厳しい状況だというのは以前からも把握しておりましたし、募集人数そのものを増やしている、さらに応募してくる人数が減っているということで倍率がぐっと下がっているという、両方の形で倍率も下がってきているという状況ですので、非常に深刻だと思っています。

これは教員もそうですし、一般事務なんかもそうですし、みんなそうです。だから、さっきのバスの話にしてもみんなそうですけど、とにかく人手不足ということは、あらゆるところに広がっているという危機感を持っています。

【毎日】 毎日です。

関連なんですけれども、川崎の教職員の方、いろいろ大変な状況はあるようですが、1つ、ハラスメント系の話が先般もアンケート結果で出てきました。1つ気になったのが、回答率をどう評価するかというのはいろいろ受け止めがあるんでしょうけど、12%ですか、印象では低いんだなということが1つあったのと、それから、ハラスメントを受けた方が何もしなかった、あるいはできなかったという反応が結構目立った、4割ぐらいいた。その辺について、風通しのよさ、悪さみたいな部分がやっぱり教職員の間であって、それが仕事を早めに辞めてしまう人とか、あるいは応募しない人とかにつながっているのではないかという話が昨日の民間会見でも出ていましたが、その辺りは、市長、どのように受け止めていらっしゃるでしょうか。

【市長】 様々な、例えば離職してしまうとかということも含めてなんですけれども、様々な理由があると思っています。その1つとして、ハラスメントということもある中で、やはり風通しをよくしていかなくちゃいけないということと、やはり相談できる場所というのは、内部でのところがいいのか、外部のほうが好ましいのかというようないろんな御指摘も、御意見もあると思っています。そういった意味で、その辺りを教育委員会ともしっかりと議論しているというところであります。

【司会】 質問、以上でよろしいでしょうか。

以上をもちまして、市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当